

2030年に向けた 生物多様性活動のポイント

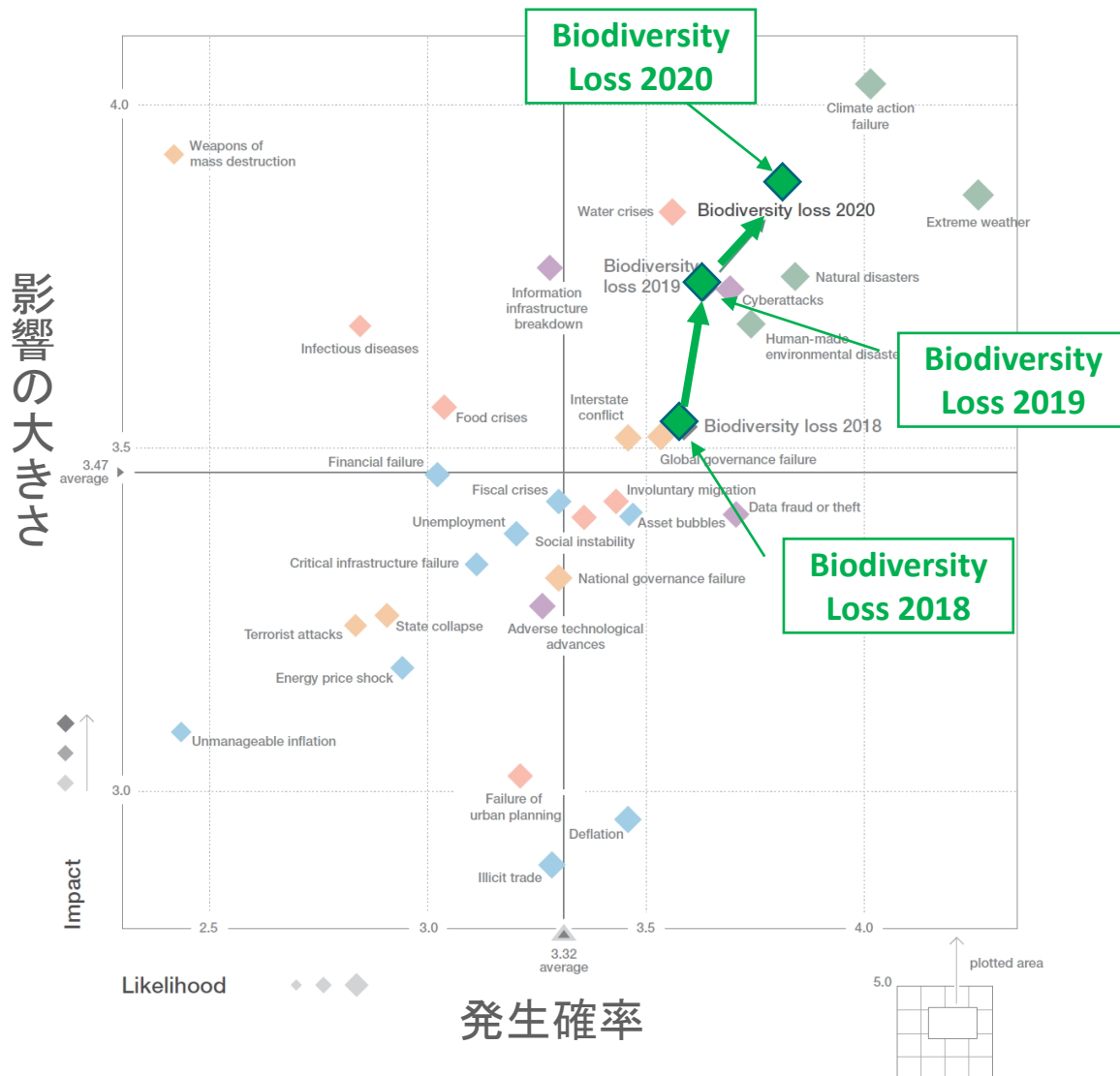
2022年2月18日



株式会社エコロジープス
北澤 哲弥

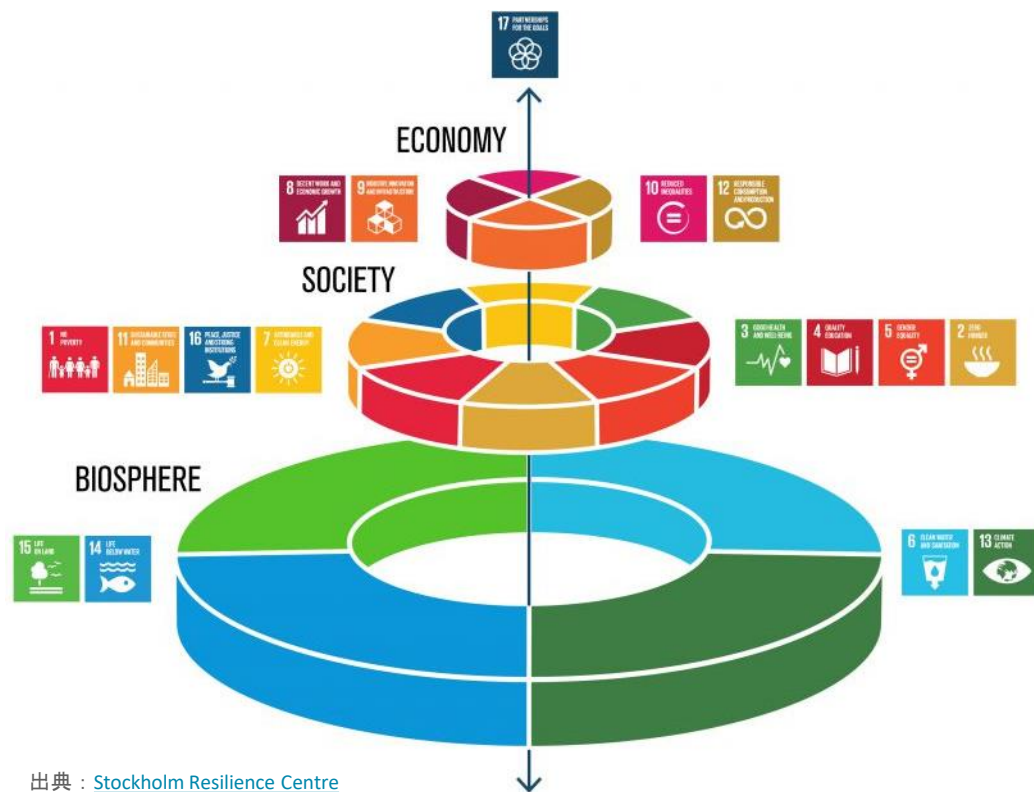
生物多様性は世界のサステナビリティの重要課題

FIGURE 2:
The Global Risks Landscape 2020 and the evolution of the biodiversity loss risk in the past three years



- 世界の政治、経済界が注目するグローバルリスクとして、生物多様性への関心が高まっている
- 最新版でも、気候変動と感染症に次いで、生物多様性が持続可能な社会へのリスクとみなされている

生物多様性とビジネスとの関連：依存



出典：Stockholm Resilience Centre

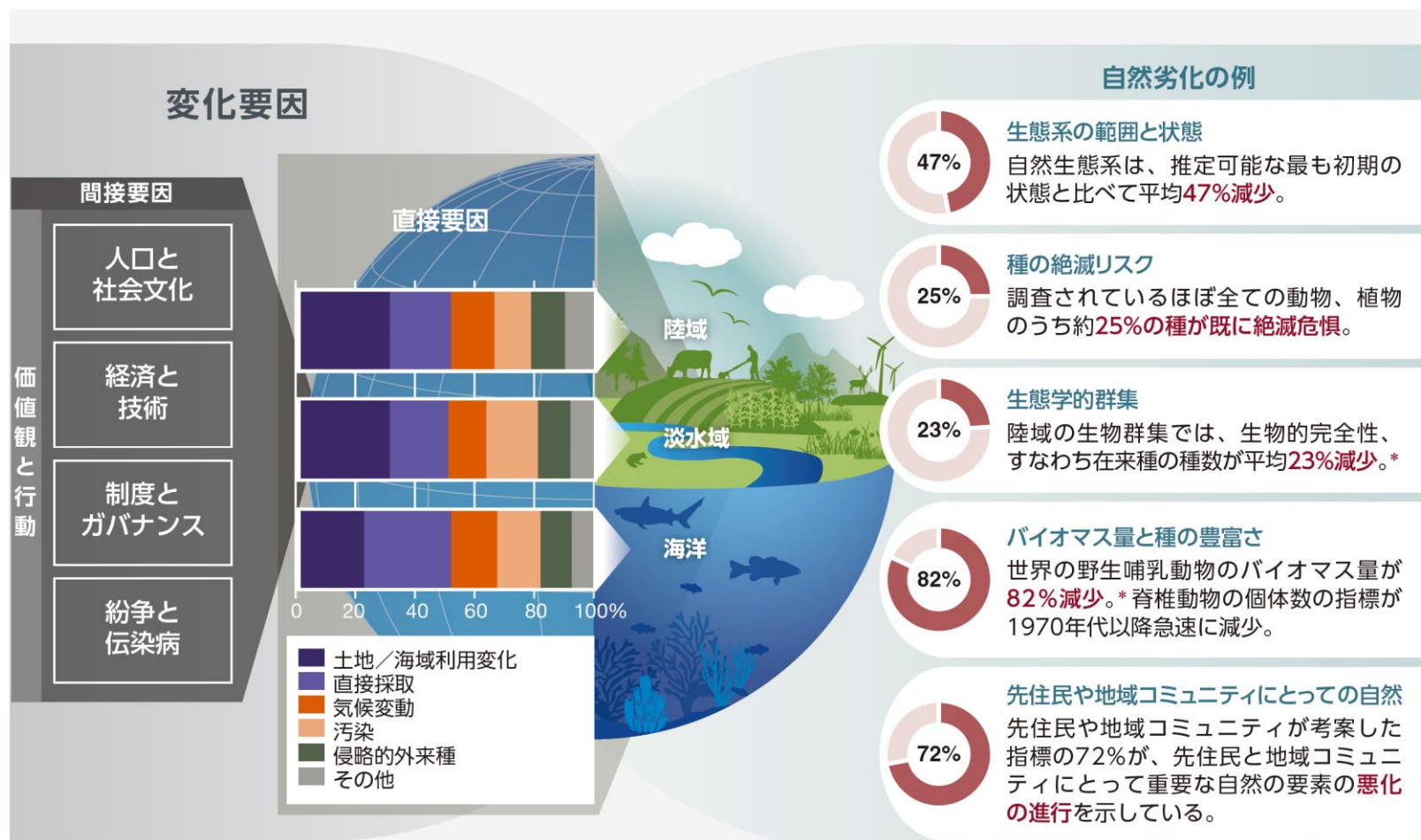
- 世界の総GDPの半分以上（44兆ドル）が自然とそのサービスに依存
- うち農業は2.5兆ドル、食品/飲料は1.4兆\$、建設は4兆\$を生み出している。

出典：WEF (2020) [Nature Risk Rising: Why the Crisis Engulfing Nature Matters for Business and the Economy](#)

生物多様性は社会・経済を支える重要な基盤

生物多様性とビジネスとの関連：依存

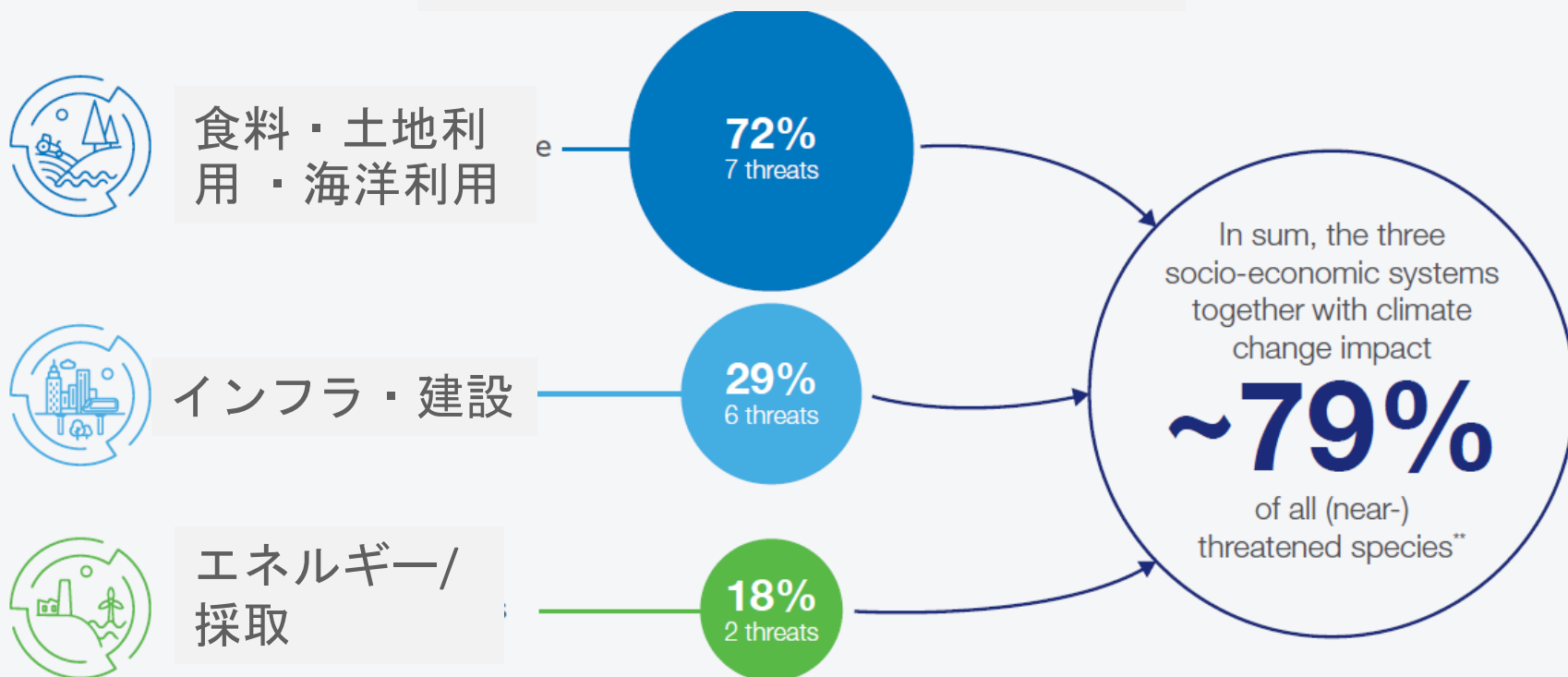
- ・ 現状延長（BAU）で、数十年で動植物100万種が絶滅の危機
- ・ 生物多様性喪失の直接要因は生産/消費パターンや人口増等に起因
- ・ BAUで、2030年には年間2.7兆ドルの経済損失を被る



生物多様性とビジネスとの関連：影響

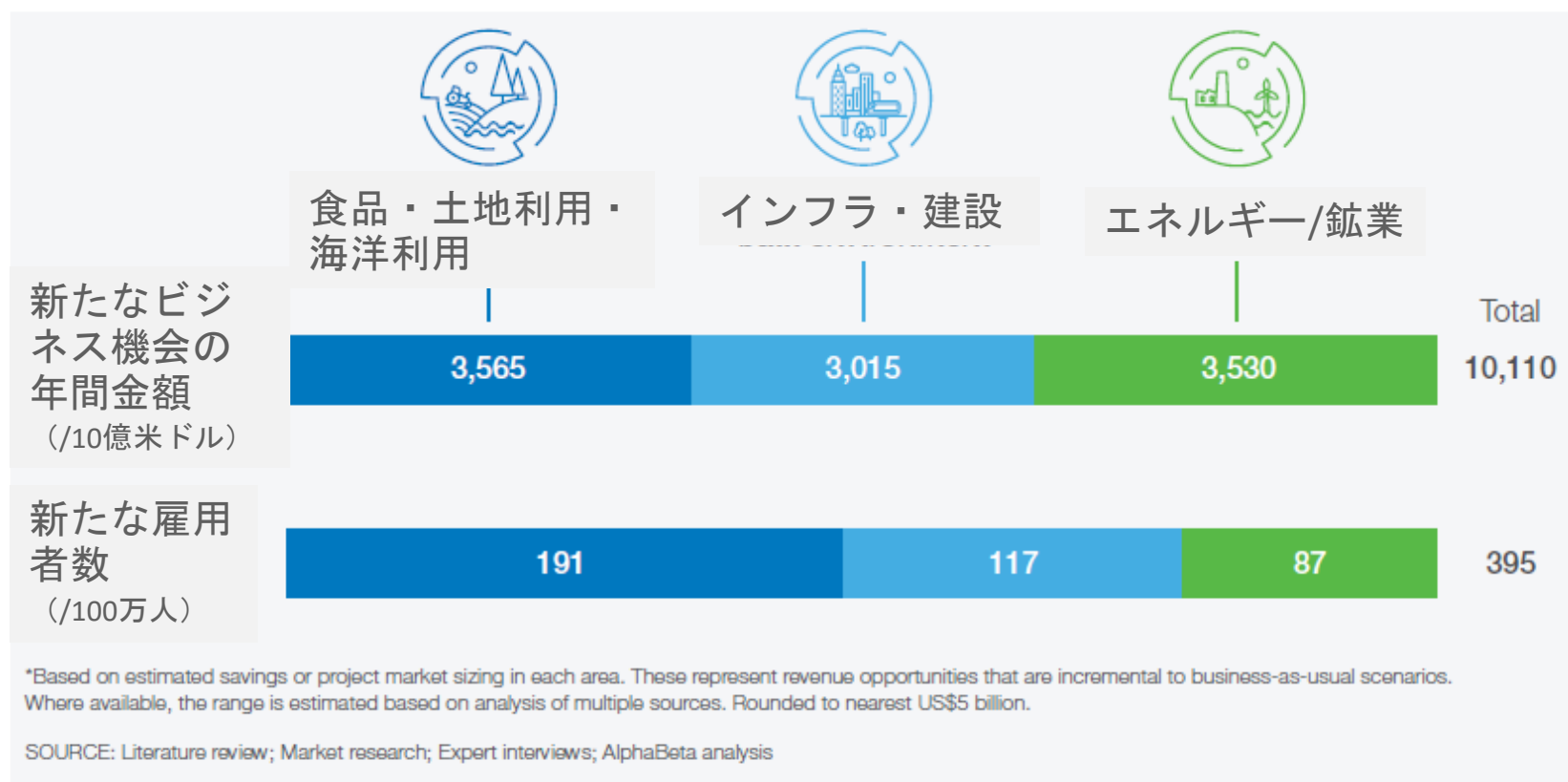
- 3つの社会経済システム（食料・土地利用・海洋利用、インフラ・建設業、エネルギー/採取業）は、絶滅危惧種の79%に影響及ぼす

影響を受ける絶滅危惧種の割合



生物多様性とビジネスとの関連：機会創出

- 生物多様性配慮型の社会経済システムへの移行は、2030年までに3億9500万人の雇用、年間10兆ドル相当のビジネス機会を創出



生物多様性がビジネスリスクとチャンスになる時代

企業活動が「依存」する生物多様性が失われている

生物多様性に負の「影響」を及ぼす要因の一部が企業活動や消費にある

このまま生物多様性の減少が進めば、2030年には年間2.7兆ドルの損失を被る可能性

= 生物多様性の減少はビジネスリスクとなる

出典：World Bank (2021) [The Economic Case for Nature](#)

リスク低減/回避には社会経済システムの変革が必要。そこには新たな設備投資や革新技術（IoT、AI、ビッグデータ等）が欠かせない

= 生物多様性への対応がビジネスチャンスとなる

出典：WEF (2020) [Nature Risk Rising: Why the Crisis Engulfing Nature Matters for Business and the Economy](#)

だからこそ、TNFDが求められる

世界が目指すのは「Nature Positive」

◆2021年6月 「G7・2030年自然協約」採択（G7コーンウォール・サミット）

「我々の世界は、ネット・ゼロを達成するのみならず、持続可能かつ包摂的な発展を促進することに焦点を当てつつ、人々と地球双方にとって利益となる**ネイチャーポジティブ**を達成しなければならない」

◆2021年6月 TNFD発足。そのミッション

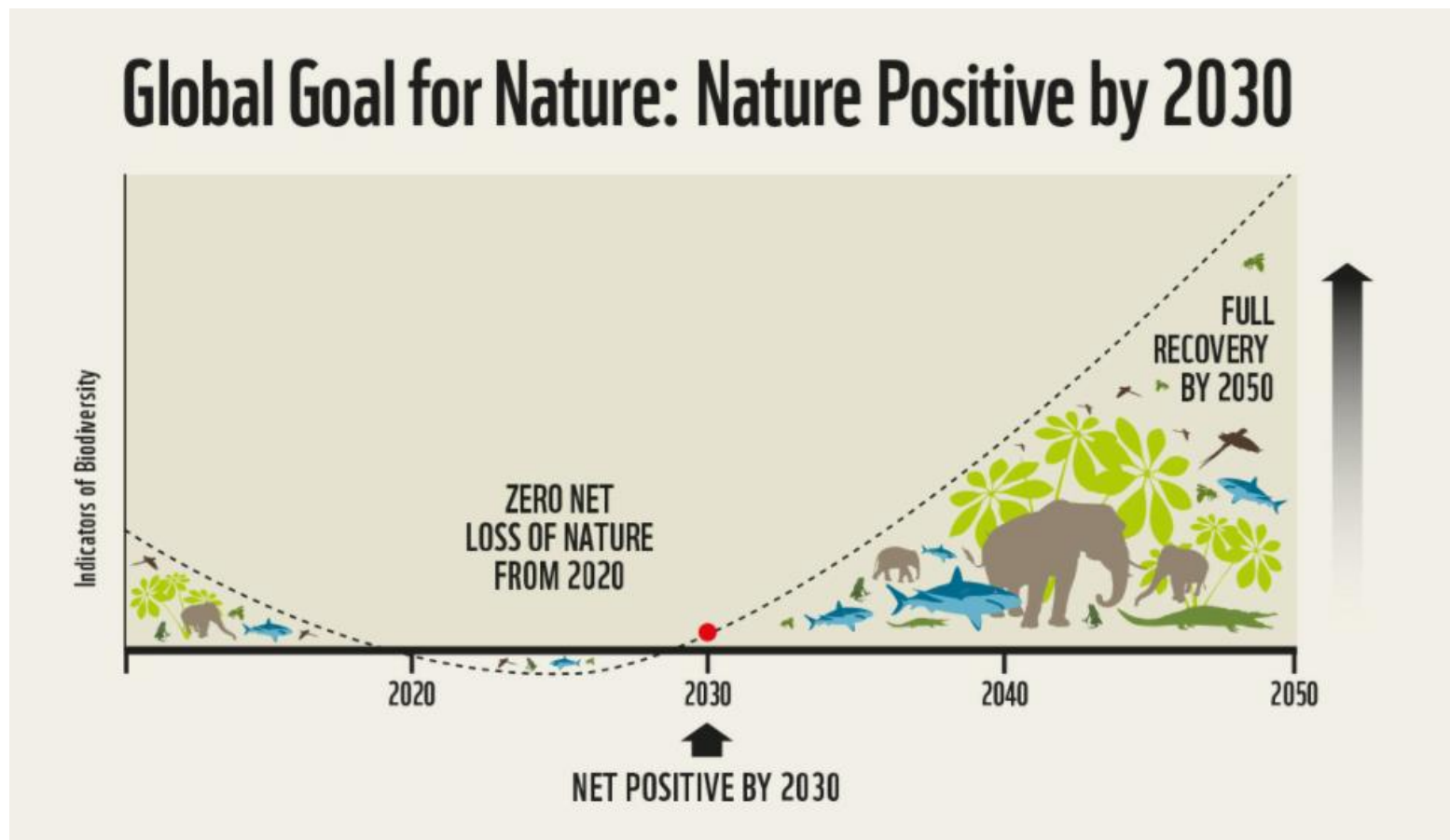
グローバルな資金の流れを「ネイチャーネガティブ」から「**ネイチャーポジティブ**」なアウトカムへと移行させるため、組織が自然関連リスクを報告し、それに基づいて行動するためのリスク管理/開示の枠組みを開発・提供する。

◆2021年10月 「昆明宣言」（生物多様性条約COP15 閣僚級会合）

「『自然との共生』という2050年ビジョンの完全な実現に向けて、遅くとも2030年までに生物多様性の現在の損失を回復させ、生物多様性が回復軌道に乗ることを確実にする」

Nature Positiveというコンセプト

2030年までに生物多様性の世界的な減少傾向を止め、逆転させる



ポスト2020生物多様性枠組（1次ドラフト）

Nature
Positive

2050年ビジョン
「自然と共生する社会」

2030年ミッション：人類の恩恵のために、
生物多様性を回復の軌道に乗せるため、緊
急な行動を社会全体で起こす

脅威の縮小

- ① BD配慮型の空間計画
- ② 劣化した生態系の20%を再生
- ③ 保護地域の拡大 30 by 30
- ④ 遺伝的多様性の回復・保全
- ⑤ 種の採取、取引、利用を合法かつ持続可能に
- ⑥ 外来生物の侵入定着を50%減
- ⑦ 汚染対策（富栄養化、殺虫剤、プラスチック）
- ⑧ 気候変動の緩和・適応に貢献

人々の要請に応える

- ⑨ 自然資源の持続的管理と利用
- ⑩ 持続可能な農業
- ⑪ 環境維持、防災機能の強化
- ⑫ 持続可能な都市づくり
- ⑬ ABS（遺伝子資源）

ツールと解決策

- ⑭ 政策、計画、会計等へBDの価値を統合
- ⑮ **企業の取組促進**
- ⑯ 持続可能な食料システム

21個の個別目標

- ⑰ 生物工学による悪影響の防止、制御
- ⑱ BDに有害なインセンティブの変革
- ⑲ 資金動員を増やし、途上国を支援
- ⑳ 地域社会の伝統知を含めた啓発、教育
- ㉑ 意思決定におけるダイバーシティ確保

※BD：生物多様性

ポスト2020生物多様性枠組と企業との関係

ポスト2020生物多様性枠組 1次ドラフトの目標15（2021年7月公表）

各地域から地球規模まで、**すべてのビジネス**（公的・民間、大・中・小）がそれぞれの生物多様性に対する依存状況及び影響を評価及び報告し、漸進的に負の影響を低減して、少なくともこれを半減し正の影響を増加させ、ビジネスへの生物多様性に関連するリスクを削減し、採取／生産活動、ソーシング／サプライチェーン、使い捨てにおける完全な持続可能性を目指す。

出典：環境省ポスト2020生物多様性枠組 1次ドラフト 英文及び仮訳

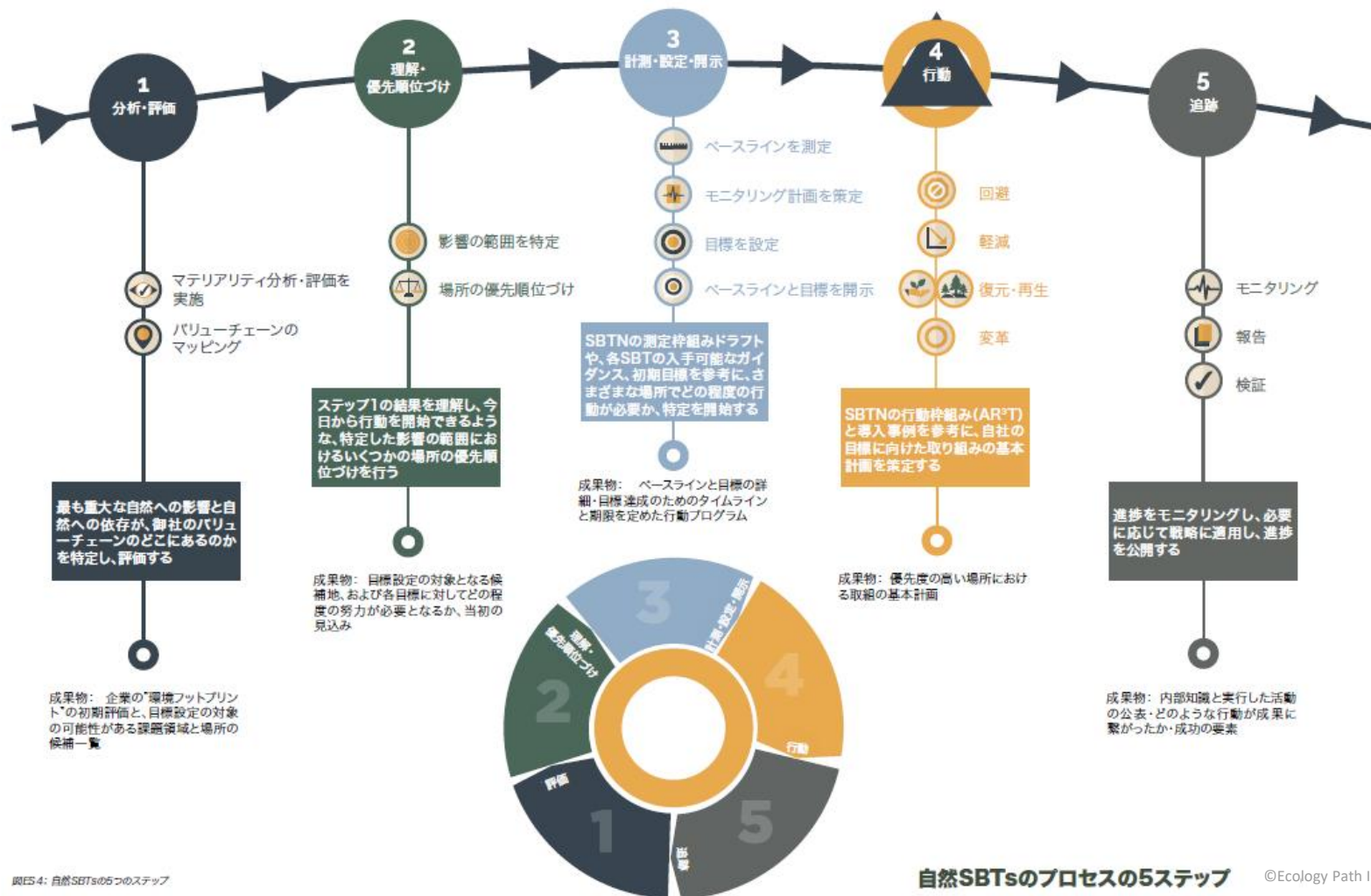
企業に取り組むべき5つのポイント

- 評価、戦略、開示
- ネガティブインパクトの低減（2030年までに半減）
- 自然の再生および復元
- リスク管理
- バリューチェーン、サプライチェーンの視野を持つ

ミチゲーション、
オフセットの
重要性が増大

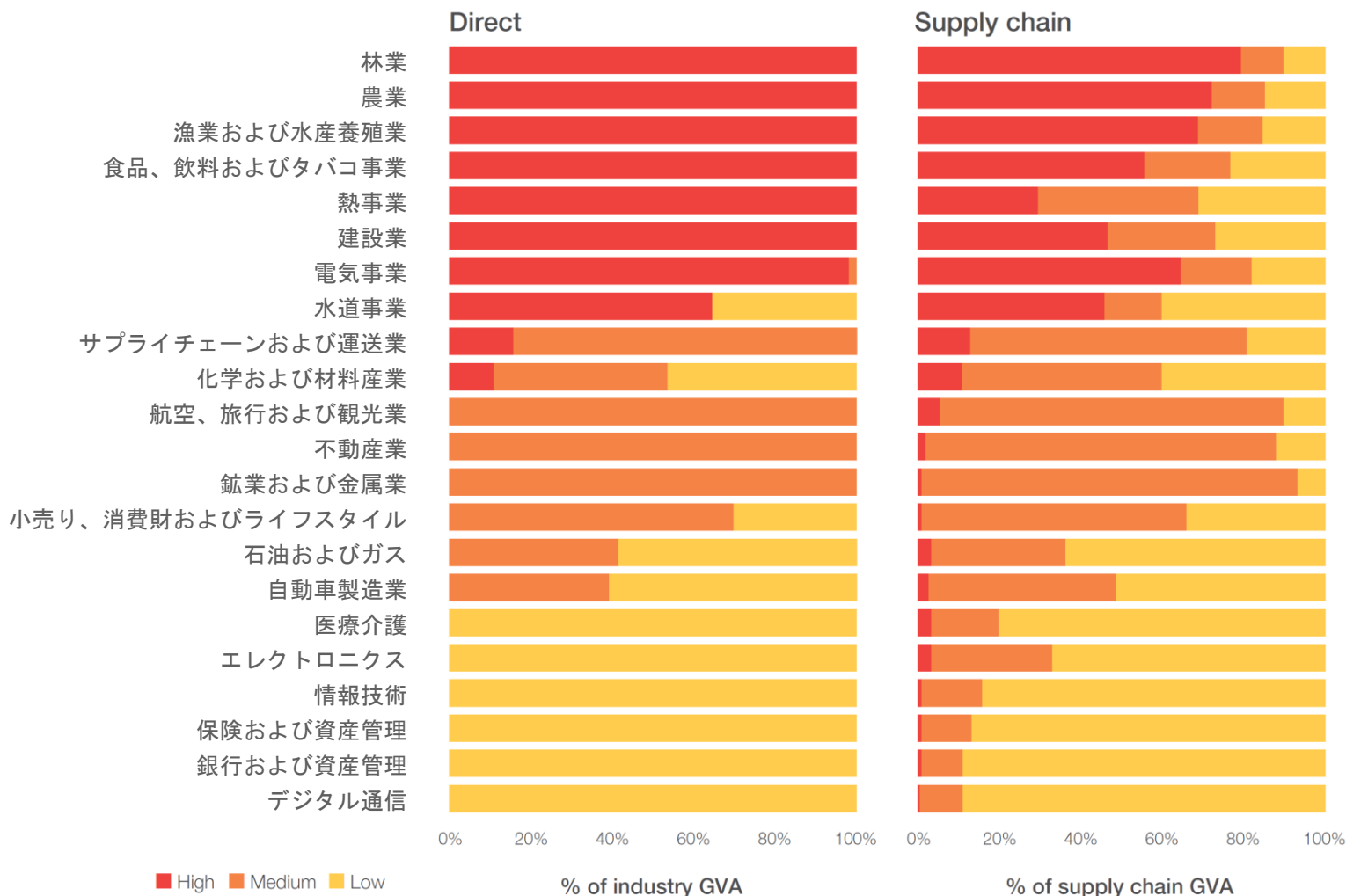
ポイントを踏まえた取り組みの進め方

例) SBT for Nature : 分析評価、解釈・優先順位付け、計測・設定・開示、行動、追跡の5ステップで目標15をカバーしている



生物多様性との関係性はセクターにより異なる

関係性が強い場合、生物多様性への対応は不可欠。直接の関係は弱くとも、サプライチェーン上に強い関係が隠れていることもある。



評価&戦略が整理されていないと...

「なぜ自社が生物多様性に取り組むのか？」
という問いに答えられない



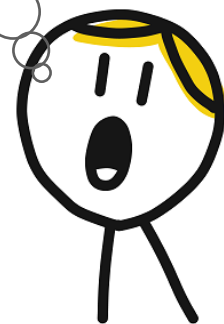
メダカは身近な魚だったのに絶滅危惧種になった。自社には池があるから、
① ここでメダカを増やし、わが社の生物多様性の取り組みにしましょう！



食品メーカーの担当者

メダカはかわい
いけれど、なぜ
うちがやるの？

②

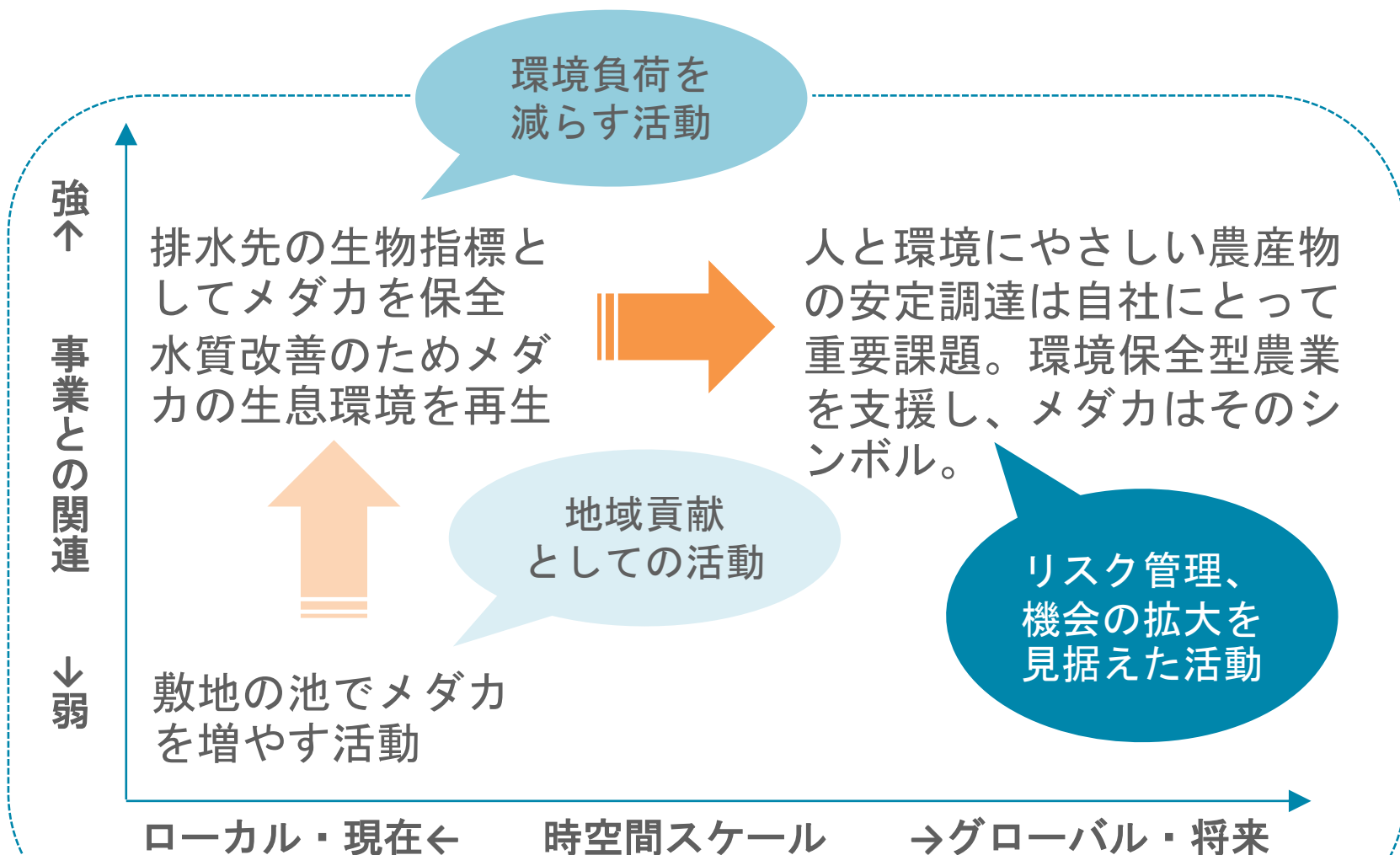


経営層、他部門、
外部のステーク
ホルダー

③

...

個別活動から、ESGを踏まえた活動へ



生物多様性を活かす価値創造ストーリー

担当者

＝なぜ自社が生物多様性に取り組むのか？



ご清聴ありがとうございました

講義に関するご質問、その他お問い合わせはこちらまで
kitazawa@ecopath.co.jp